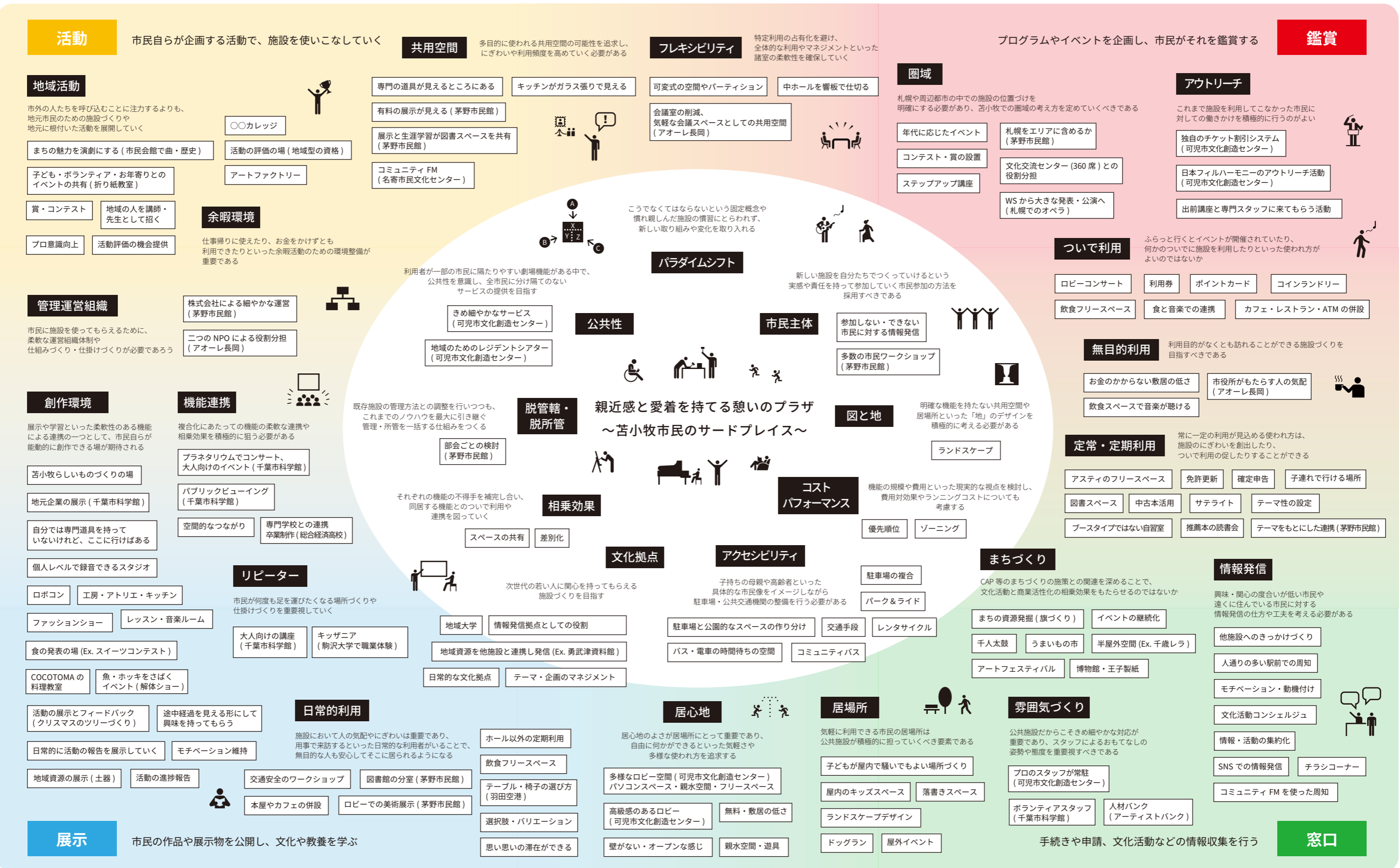


# アイデアとキーワード



## 活動

市民自らが企画する活動で、施設を使いこなしていく

### 地域活動

市外の人たちを呼び込むことに注力するよりも、地元市民のための施設づくりや地元根付いた活動を展開していく

- まちの魅力や演劇にする (市民会館で曲・歴史)
- 活動の評価の場 (地域型の資格)
- 子ども・ボランティア・お年寄りとのイベントの共有 (折り紙教室)
- アートファクトリー
- 賞・コンテスト
- 地域の人を講師・先生として招く
- プロ意識向上
- 活動評価の機会提供

### 余暇環境

仕事帰りに使えたり、お金をかけずとも利用できたりといった余暇活動のための環境整備が重要である

### 管理運営組織

市民に施設を使ってもらえるために、柔軟な運営組織体制や仕組みづくり・仕掛けづくりが必要である

- 株式会社による細やかな運営 (茅野市民館)
- 二つのNPOによる役割分担 (アオーレ長岡)

### 創作環境

展示や学習といった柔軟性のある機能による連携の一つとして、市民自らが能動的に創作できる場が期待される

- 苫小牧らしいものづくりの場
- 地元企業の展示 (千葉市科学館)
- 自分では専門道具を持っていないけれど、ここに行けばある
- 個人レベルで録音できるスタジオ
- ロボコン
- 工房・アトリエ・キッチン
- ファッションショー
- レッスン・音楽ルーム
- 食の発表の場 (Ex.スイーツコンテスト)
- COCOTOMAの料理教室
- 魚・ホッキをさばくイベント (解体ショー)

### 機能連携

複合化にあたっての機能の柔軟な連携や相乗効果を積極的に狙う必要がある

- プラネタリウムでコンサート、大人向けのイベント (千葉市科学館)
- パブリックビューイング (千葉市科学館)
- 空間的なつながり
- 専門学校との連携卒業制作 (総合経済高校)

### リピーター

市民が何度も足を運びたい場所づくりや仕掛けづくりを重要視していく

- 大人向けの講座 (千葉市科学館)
- キッズシアター (駒沢大学で職業体験)

### 日常的利用

施設において人の気配やにぎわいは重要であり、用事で来訪するといった日常的な利用者がいることで、無目的な人も安心してそこに居られるようになる

- 活動の展示とフィードバック (クリスマスのツリーづくり)
- 途中経過を見える形にして興味を持ってもらう
- 日常的に活動の報告を展示していく
- モチベーション維持
- 地域資源の展示 (土器)
- 活動の進捗報告
- 交通安全のワークショップ
- 図書館の分室 (茅野市民館)
- 本屋やカフェの併設
- ロビーでの美術展示 (茅野市民館)

## 展示

市民の作品や展示物を公開し、文化や教養を学ぶ

## 共用空間

多目的に使われる共用空間の可能性を追求し、にぎわいや利用頻度を高めていく必要がある

- 専門の道具が見えるところにある
- キッチンがガラス張りで見える
- 有料の展示が見える (茅野市民館)
- 展示と生涯学習が図書スペースを共有 (茅野市民館)
- コミュニティFM (名寄市民文化センター)

## フレキシビリティ

特定利用の占有化を避け、全体的な利用やマネジメントといった諸室の柔軟性を確保していく

- 可変式の空間やパーティション
- 中ホールを響板で仕切る
- 会議室の削減、気軽な会議スペースとしての共用空間 (アオーレ長岡)

## パラダイムシフト

こうでなくてはならないという固定概念や慣れ親しんだ施設の慣習にとらわれず、新しい取り組みや変化を取り入れる

利用者が一部の市民に隔たりやすい劇場機能がある中で、公共性を意識し、全市民に分け隔てのないサービスの提供を目指す

- きめ細やかなサービス (可児市文化創造センター)
- 地域のためのレジデントシアター (可児市文化創造センター)

## 公共性



## 市民主体

新しい施設を自分たちでつくっていくという実感や責任を持って参加していく市民参加の方法を採用すべきである

- 参加しない・できない市民に対する情報発信
- 多数の市民ワークショップ (茅野市民館)

## 親近感と愛着を持てる憩いのプラザ ~ 苫小牧市民のサードプレイス ~



## 脱管轄・脱所管

既存施設の管理方法との調整を行いつつも、これまでのノウハウを最大に引き継ぐ管理・所管を一括する仕組みをつくる

- 部会ごとの検討 (茅野市民館)

## 相乗効果

それぞれの機能の不得手を補完し合い、同居する機能とのついで利用や連携を図っていく

- スペースの共有
- 差別化

## 文化拠点

次世代の若い人に関心を持ってもらえる施設づくりを目指す

- 地域大学
- 情報発信拠点としての役割
- 地域資源を他施設と連携し発信 (Ex. 勇津津資料館)
- 日常的な文化拠点
- テーマ・企画のマネジメント

## 居心地

居心地のよさが居場所にとって重要であり、自由に何かができるといった気軽さや多様な使われ方を追求する

- 多様なロビー空間 (可児市文化創造センター)
- パソコンスペース・親水空間・フリースペース
- 高級感のあるロビー (可児市文化創造センター)
- 無料・敷居の低さ
- 壁がない・オープンな感じ
- 親水空間・遊具

## 居場所

気軽に利用できる市民の居場所は公共施設が積極的に担っていくべき要素である

- 子どもが屋内で騒いでもよい場所づくり
- 屋内のキッズスペース
- 落書きスペース
- ランドスケープデザイン
- ドッグラン
- 屋外イベント

## 雰囲気づくり

公共施設だからこそ細やかな対応が重要であり、スタッフによるおもてなしの姿勢や態度を重要視すべきである

- プロのスタッフが常駐 (可児市文化創造センター)
- ボランティアスタッフ (千葉市科学館)
- 人材バンク (アーティストバンク)

## 鑑賞

プログラムやイベントを企画し、市民がそれを鑑賞する

### アウトリーチ

これまで施設を利用してこなかった市民に対しての働きかけを積極的に行うのがよい

- 独自のチケット割引システム (可児市文化創造センター)
- 日本フィルハーモニーのアウトリーチ活動 (可児市文化創造センター)
- 出前講座と専門スタッフに来てもらう活動

### ついで利用

ふらっと行くとイベントが開催されていたり、何かのついでに施設を利用したりといった使われ方がよいのではないか

- ロビーコンサート
- 利用券
- ポイントカード
- コインランドリー
- 飲食フリースペース
- 食と音楽での連携
- カフェ・レストラン・ATMの併設

### 無目的利用

利用目的がなくとも訪れることができる施設づくりを目指すべきである

- お金のかからない敷居の低さ
- 市役所がもたらす人の気配 (アオーレ長岡)
- 飲食スペースで音楽が聴ける

### 定常・定期利用

常に一定の利用が見込める使われ方は、施設のにぎわいを創出したり、ついで利用の促しやすくなる

- アスティのフリースペース
- 免許更新
- 確定申告
- 子連れで行ける場所
- 図書スペース
- 中古本活用
- サテライト
- テーマ性の設定
- ブースタイプではない自習室
- 推薦本の読書会
- テーマをもとにした連携 (茅野市民館)

### 情報発信

興味・関心の度合いが低い市民や遠くに住んでいる市民に対する情報発信の仕方や工夫を考える必要がある

- まちの資源発掘 (旗づくり)
- イベントの継続化
- 千人太鼓
- うまいもの市
- 半屋外空間 (Ex. 千歳レラ)
- アートフェスティバル
- 博物館・王子製紙
- 他施設へのきっかけづくり
- 人通りの多い駅前での周知
- モチベーション・動機付け
- 文化活動コンシェルジュ
- 情報・活動の集約化
- SNSでの情報発信
- チラシコーナー
- コミュニティFMを使った周知

## 窓口

手続きや申請、文化活動などの情報収集を行う